

重要文化財

地蔵菩薩立像 (観心寺)

観心寺の「霊宝館」に常設されている、平安時代の木造彫刻です。



重要文化財

十一面観音立像 (観心寺)

観心寺の「霊宝館」に常設されている木造彫刻。穏やかな表情が見る者を魅了します。制作は平安時代。



【観心寺】広域マップ：D-2



国宝 如意輪観音坐像 (観心寺)

如意宝珠と輪軸の功德で衆生の苦を破り、富をもたらし、願望を叶えたとされる観音。制作は承和年間(834~848年)と推定されます。

「重要文化財」とは名前の通り、国が保護する重要な文化財。その中でも特に価値が高いものが「国宝」に指定されています。そんな、日本の宝ともいえる国宝や重文が河内長野市には驚くほどたくさん。ぶらり散策すれば文化財に出会える、歴史の宝箱のような街なのです。そのごく一部を、ご紹介しましょう。

7件の国宝と77件の重要文化財。河内長野市は街全体が博物館。

大集合！

重文 国宝



重要文化財

増長天立像・持国天立像 (金剛寺楼門)

金剛寺楼門の守護神として、お寺を守る木造の二天王。右側の持国天立像は271.5cm、左側の増長天立像は271.9cm。各像内には「弘安二年」「大仏師法橋正快」等の銘文があります。



左が増長天

右が持国天



国宝 観心寺 金堂

室町時代の初期に建立。それまでの伝統的な建築方法から発展した「和様」に、中国式の「禅宗様」を取り入れた折衷建築です。中には国宝如意輪観音像が安置されており、毎年4月17・18日にご開帳されます。



重要文化財

観心寺 恩賜講堂

昭和三年に京都御所で行われた昭和天皇の即位の大礼に使われた大饗宴場の一部を昭和5年に観心寺に移築した建物です。日本の伝統的な文様が描かれた二重折上格天井と西洋風のシャンデリアなど、和洋折衷の装飾が建物内を華やかに彩っています。



重要文化財 岩湧山 多宝塔

別紙確認下さい

建立は天文年間(1532~1555年)頃。上層は円筒形、下層は方形の塔身を持つ二重塔で、簡素な作りでありながら、力強さも併せ持つ佇まいです。 広域マップ：C-5



重要文化財 烏帽子形八幡神社 本殿

広域マップ：C-2

発見された棟札によれば、建立は文明12年(1480年)。本殿は桁行3間、梁行2間の入母屋造、檜皮葺きの建物です。正面三方に縁をめぐらして、正面中央に擬宝珠をつけた5段の階段がつけられています。

重要文化財 金剛寺 金堂

建立は鎌倉時代後期。平成29年(2017年)に修復が完成した、目に鮮やかな朱色の建物です。室内には中央に大日如来坐像、右に不動明王坐像、左に降三世明王坐像を安置しています。



重要文化財 長野神社 本殿

広域マップ：a

1間社流造で、三角形の千鳥破風と曲線の唐破風の二種類を組み合わせた屋根が特徴的です。檜の樹皮を使って屋根を葺く檜皮葺の建物で、室町時代後期に建てられました。

重要文化財 広域マップ：D-3

釈迦如来立像 (延命寺)

飛鳥時代に建立された羽曳野市古市の西琳寺の本尊でしたが、明治5年(1872年)に延命寺へ移されました。



重要文化財 金剛寺 楼門

建立は鎌倉時代後期。金堂や多宝塔などのある中心伽藍への正面入口にあたります。落ち着いた色合いの境内の中で、朱色がひときわ目を引く2階建ての入母屋造の門で、屋根は本瓦で葺かれています。

降三世明王坐像・大日如来坐像・不動明王坐像 (天野山金剛寺)

国宝

金剛寺の金堂に安置されている三体の国宝。中央が大日如来坐像、左が降三世明王坐像、右が不動明王坐像で、いずれも檜に彫られた寄木造の坐像です。



【天野山金剛寺】広域マップ：B-2



重要文化財

弥勒菩薩坐像 (観心寺)

観心寺の「霊宝館」に常設。薬師如来坐像、釈迦如来坐像、宝生如来坐像、そして弥勒菩薩坐像を合わせて塔内四仏と呼ばれます。